SINAPIS

社会活動センター・シナピスは平和を実現する使命に向けて生きる人びとを応援します

月刊シナピスニュースレター

Vol. 89

2023.10

年間テーマ　～ 平和を目指してともに歩もう ～

今月のテーマ

「飢える人と捨てる人」

タイトル:「平和を育てよう」

作：丸田　周

第２回シナピス主催絵画コンテスト
大司教賞 受賞作品

地上でもっとも小さいといわれている種子、
それがシナピス(からし種)です。
イエスは神の愛がすべての人におよび、
互いに尊重し合い、
愛し合うように願って平和の種をまき、
やがて鳥が巣をつくるほどの大きな木になると
約束しました。

カトリック大阪大司教区
社会活動センター・シナピス
TEL/06-6942-1784　FAX/06-6920-2203
Email/sinapis@osaka.catholic.jp
ホームページ/https://sinapis.osaka.catholic.jp/

巻頭言

世界食料デー（10月16日）に思う

カトリック社会活動神戸センター　山野　真実子

地球温暖化はもはや終わり、「地球沸騰化」だと言わざるを得ない状況を迎えた全くもって“熱い”夏でした。それでも夜ともなれば秋の虫たちの声が道端の草むらから聞こえています。

次から次へとやって来る大小さまざまな台風によって地球の表面温度は少しずつ下がっているようですが、その代償は大きな災害と引き換えという現実を突きつけられる昨今です。

人間の飽くことのない探求と欲求から生まれた文明によってもたらされた結果としての現象を私たちはどう受け止め、どのように対処すれば良いのかと自問する日々、フラッと駅の書店に立ち寄ってみると、月刊雑誌の並ぶ通称“面陳”（表紙を見やすくする陳列）の書籍はどれもこれも食欲をそそる美味しそうな食べ物の写真で埋められていました。

夏はレジャー、実りの秋はやはり食物なのでしょうか。テレビを観ても行列のできる店の特集や隠れた美味など放映されない日はありません。そんなにみんな美味しい物を求めて右往左往しているのでしょうか？

いやあ、私の知る社会の片隅で起きている現実は全く違っているのですが。

阪神・淡路大震災をきっかけに、「炊き出し」という食に関わってずいぶん長くなりましたが、行列する困窮者の数はテレビの中のグルマンと呼ばれる人の比ではなく、行列店や雑誌の誌面を飾る食とは程遠いものですが、金銭と引き換えに提供されるサービスとは程遠い、公園に行列する人々への思いは札束では買えないほどの大盛りです。

これを書いている今、キム総書記がプーチン大統領と会談し食料と武器の交換が行われるとのニュースが流れています。どちらも自国の国民を思っての行動ではなく、自身の権力保持の手段としても取引です。

同じように、世界の各地で今も食物を求めて争いが続き、命が失われています。

世界食料デー“みんなで食べる幸せを”は、一日限りのイベントごとではなく、毎日が世界食料デーであり、人々が分かち合える政治経済が行われてこそ、文明社会と呼べるのではないかと思います。

【参考】　**「世界食料デー」**：1945 年 10 月 16 日に国連食糧農業機関（FAO）が創設されたことを記念し、毎年 10 月１６日は世界の食料問題を考える日として、国連により 1981 年に「世界食料デー」と定められました。１分間に 17 人（うち 12 人が子ども）、１日に２万５千人が、１年間では約１千万人が飢えのために命を失っている現在、世界の飢餓問題や食料課題について考え、フードバンクへの寄付や食品ロスの削減について考える機会にしてはいかがでしょうか。（編集部）

年間テーマ

～平和を目指してともに歩もう～

身近なことから世界に至るまで、互いを思いやれないことで生じる衝突が後を絶ちません。剣を取る者は皆、剣で滅びる」（マタイ 26:52）と言われたイエスの生き方に倣い、暴力に打ち勝つ強い信念をもち、交わりを通して互いを理解し尊重しあえる平和の実現を目指します。このニュースが皆さまといっしょに考え、わかちあいの場となることを願っています。

ミャンマーのことを　忘れないでください

ポーチョ（愛称）

2021 年のクーデターの後、ミャンマーの多くの若者のように、仕事をボイコットして非暴力の抵抗運動、そして PDF（国民防衛隊）に加わりました。仲間の逮捕により、日本に亡命して、もうすぐ一年になります。
熱心に日本語を学び、仕事を探し、希望をもって明るく日々を送っています。

〈ポーチョのメッセージ〉

そうです、私たちは亡命者なのです.。
なぜなら、私たちは人権が日常的に侵害され、政府が市民を抑圧し、自分の意見を述べたり、信念を実践することで、拷問や投獄、あるいは死の危険にさらされている場所から来たからです。

そうです、私たちは亡命者なのです。
なぜなら、私たちは人種、宗教，性別、性的思考、政治的信条により、標的にされることから逃れるために祖国を去らなければならなかった人たちだからです。

そうです、私たちは亡命者なのです。
なぜなら、私たちは家族、家、友人、コミュニティなどあらゆるものを捨て、祖国で私たちを苦しめた脅威から逃れなければならなかったからです。

そうです、私たちは亡命者なのです。
私たちは言葉や習慣を学び、どんな形であれ、社会に貢献することを望んでいるのです。
私たちが求めているのは、ただ生きるチャンスと安全な生活だけなのです。
必要なのは、生きていくためのシェルターであり、生活を再建していくための場所です。

私たちが求めているのは、私たちの状況を思いやり、理解できる人です。私たちは、あなたが提供できるすべての助けとサポートに感謝し、感謝の気持ちをお伝えすることをお約束します。

Yes, we are the asylum seekers. Because we come from places where human rights are routinely violated, Where the government oppresses its citizens, and where we are at risk of torture, Imprisonment, or even death for expressing our opinions or practicing our beliefs.

Yes, we are the asylum seekers . .Because　we’re the ones who have had to leave our homelands to escape from　being targeted　based on our race ,religion, gender or sexual orientation and political beliefs.

Yes, we are the asylum seekers . Because we have to leave　behind　everything　such as families, homes, friends , communities, to escape from the threats that plagued　us in our home lands.

Yes, we are the asylum seekers . Yes, we are willing to learn the language and the customs , and contribute to society in any way we can. All we ask for is a chance to live, to be safe. All we need is a shelter to stay alive , a place where we can rebuild our lives.

All we want is someone who can consider our situation with compassion and understandings. We are grateful for any help and support that you can provide , and we promise to acknowledge that gratitude.

シナピス運営委員　西口信幸

障がい者委員会より

2022年国際障害者デー　教皇メッセージを読み解く

枚方教会　宮永（みやなが） 久人（ひさと）

教皇フランシスコは毎年、国際障害者デーの 12 月 3 日に向けてメッセージを出されていますが、昨年の同日付で出されたメッセージがこのほど中央協議会のホームページに掲載されました。私も翻訳に関わったので、ぜひお読みいただきたいと思います。

（教皇メッセージは、このシナピスニュースに同封されています）

周知のとおり、今年はシノドスが開かれています。そのテーマは「シノダリティ」であり、「ともに歩むこと」を意味します。今回のメッセージはこのシノドスを踏まえたものになっています。

教皇は、私たちキリスト者には障害の有無にかかわらず、その弱さのなかで主に出会い、その深い愛を体験し、安らぐことをとおして受けた福音の喜びを伝える仕事があると言われています。このことを「弱さの教導職」ということばで言い表され、私たち障害者が持つそれは教会を豊かにし、私たちが生きている現実をよりすばらしいものへと変革していくカリスマ（賜物）であると言われています。弱さを見つめることで、人間が相互に必要とされているという連帯感が生じ、その認識が周囲との敵対関係を減少させ、民族意識をも崩し、今経験している無意味な紛争の解決策を模索させるであろうと言われています。

そのうえでシノドス大陸ステージの作業文書から、教会の中での配慮の欠如、障害者差別の存在を指摘され、「自らの教えにもかかわらず、教会は、社会が彼らを脇に追いやる方法を真似る危険にさらされているのです。……（それは）障害者に対する拒絶の文化を表しています。それらは偶然に生じたものではなく、同じ根源をもっています。障害者のいのちは他のものより価値が低いという考えです」と引用され、私たち障害者が教会のなかで十分受け入れられていないことを認められたうえで、「あらゆるキリスト教共同体が障害をもつ兄弟姉妹の存在に心を開き、彼らがつねに歓迎され、完全に包摂されるよう願っています」と、教会に障害者に寄り添い、受け入れるよう促しておられます。

また、ウクライナなどでの戦火の中の障害者、そして戦火の結果、障害を負ってしまう人々の苦しみにも思いをはせておられます。

教皇は私たちみんなが自分の弱さを見つめ、主により頼むことによって、「私たち」と「その人たち」から、ひとつの「私たち」に向かうのだと言われています。

この文書は私たち障害者だけではなく、すべての人々への普遍的なメッセージを含んでいると思います。このメッセージが私たち障害をもつ者にとって励ましとなり、障害の有無にかかわらず、ともに主をたたえ、主とともに生きることができますように。

メッセージアドレス　https://www.cbcj.catholic.jp/2023/09/15/27818/

障がい者委員会より

「病者・障がい者とともに歩むミサ 2023」共同祈願より

９月 23 日（土）にカテドラルで行われた「病者・障がい者とともに歩むミサ」の中で、様々な立場からの祈りがささげられました。みなさんも分かち合ってください。

ミサの様子は、下記の YouTube（手話通訳通訳、字幕付き）ぜひご覧ください。
https://www.youtube.com/watch?v=rH0wZMBcYto

1. カ障連大阪フレンドリー：ありのままの姿で、障がい者と寄留者と共に暮らせる世界が来ますように。
2. 肢体障害：コロナ禍の中、思うように活動することができず、身体を動かすことが減り、元々の障がい以上に不便になった人がいます。もう一度、神様からのお導きの元、障がいの垣根を超えてみんながはつらつと輝ける日が来ますように。
3. **病者・障がい者の皆様と私たちカトリックスカウトがともに歩み、困難にチャレンジすることができますように**
4. 薬物依存症という障がいを持つ私たちが、依存症から解放されて、生きていることへの喜びを感じることができるようになるために、助けを求める声を出せる場所がみつかりますように。そして、それを見つけられずに死ぬ人がいなくなる社会になりますように。
5. 癌や難病、深刻な病気を告知された人たちのために祈ります。かならずイエスはあなたのそばにおられます。心安らかにその病状を受け入れられますように。
6. 精神障がい：人心は乱れ、強いものが弱いものを見捨てて好き勝手に暮らしております。神が何故我々に多様性を与えられたか、考える力をお与えください。
7. 世界中で多様性を受け入れる傾向のなか、浸透していない部分も多い現状で、未来を担う青年たちが、自分達だけの世界にとらわれず、健常者と障がい者という区別以外の、もっと広い世界の認識と交わりを続けていくことができるよう、力づけてください。
8. 私たち視覚障がい者が、あらゆる困難に負けずに、堂々と歩んでいくことができますように。また視覚障がい者と健常者が互いに支え合い、歩むことができますように。
9. 私たち発達障害吃音症への理解が進み、私たちが持てる力を発揮できる教会になりますよう、お祈り致します。
10. カトリック以外の教派には多くのろう者が行かれます。カトリック教会でも求道するろう者の仲間が増えますように。

「送還忌避者のうち本邦で出生した子どもの在留特別許可に関する対応方針について」大阪弁護士会から会長声明が出されました

出入国在留管理庁（以下、入管）は８月、「日本で生まれ日本の教育を受けている子どもとその家族に在留特別許可を与える」と発表しました。私たちは、やっと仮放免の家族に解決の道が開けるのかと喜んだのも束の間、内容を知って大きく落胆しました。

その理由は「日本で生まれ育ち」なおかつ「未成年者に限られる」と線引きをされていたからでした。

《すでに成人した人を対象から外すのは不合理》

仮放免が続く家族の中には、幼い時に親と一緒に渡日した子どもたちが含まれます。

会長声明では、日本で生まれていなくても「子どもの最善の利益」（子どもの権利条約第３条）の観点から、区別なく在留資格を与えるべきだと指摘します。

ところで私たちは、「在留特別許可を」と訴えてきたある家族に関わってきました。子どもたちは日本で生まれ育ち、現在は大学に進学しています。母親は、顔も名前も公表し、家族の在留特別許可を求めて裁判で闘ってきました。長い年月が経ち、当時中学生だった子どもたちは成人になりました。いま、こうして在留資格のない子どもたちに救済の道が開けたのは、この母子のように、強制送還の危機に晒されながらも声を上げ続けた家族がいたからです。いま、やっとその努力が実り救済される扉が開いたのに、20 歳を越えたという理由でその対象から外されようとしています。

この現実に、教会内外で多くの異論があがり、入管が発表したわずか１か月で３千筆近い署名が集まり、9 月 27 日、呼びかけ団体の「ぬくもりの会」は大阪入管に嘆願書とともに署名を提出しました。

《子どもと親とは別個の独立した人格》

また入管は、子どもへの在留特別許可の判断材料に、親の素行を挙げています。「親が不法入国・不法上陸など、在留許可を与えることに消極的になる事情がある場合は対象外」としていますが、子どもたちに向かって「あなたに在留許可を出さないのは親のせい」というのでしょうか。

会長声明では「子どもと親とは別個の独立した人格」であって、親の事情とは切り離して救済すべきだと指摘しています。また、「親の消極的事情」ですが、当時「生きるためのやむを得ない事情」であった場合も多々あります。そのことが家族の結合権を奪うことに匹敵するほどの罪だったのか、それぞれの家族の事情を考慮すべきでしょう。

《「子どもの最善の利益」や「家族結合権」の保障として子どもとその家族に在留許可を》

入管は、今回の救済措置を「一回限り」とし、その理由に「新しい入管法によって、速やかに強制送還を進めるから、在留資格のないまま日本在留が長期化する子どもは減る」と説明しています。

これがいかに暴論であるかを会長声明では簡潔に指摘されています。

シナピスは大阪弁護士会の会長声明を支持し、「子どもの権利条約」「家族の結合権」を基準にして、日本に暮らすすべての子どもとその家族の基本的人権が守られて日本社会で安心して暮らせるようにしてほしいと願っています。

（事務局・ビスカルド篤子）

絵画コンテスト
受賞者発表

第2回シナピス主催絵画コンテストに多数ご応募くださり誠にありがとうございました。
応募作はどれも作者の「平和」についての思いが伝わる素晴らしい作品でした。
厳正な選考の結果、受賞作品を発表します。おめでとうございます。
受賞作品は、今後シナピスニュース表紙にて掲載する予定です。（時期未定）

◆大司教賞◆

丸田　周（まるた あまね）さん

「平和を育てよう」

◆シナピス賞◆

かずはるみさん・はるみやざきさん

（　セントヨゼフ女子学園高等学校　）

「Bring Happiness」

◆ピース賞◆

深堀　光（ふかほり ひかり）さん

「色んな色の光」

丸田　和（まるた なごみ）さん

「友だちになろう」

村瀬　葵（むらせ あおい）さん

（　セントヨゼフ女子学園高等学校　）

「平和への願い」

（＊発表は５０音順）

＊表彰状授与式の様子は後日ニュースに掲載します。お楽しみに　♪

大司教選句：「花育て　丸くあまねく　平和賞」

タイトル：平和を育てよう

名前：丸田　周（中学１年）

選評：みんなの手で、ロザリオに象徴される、キリストの十字架とマリアの祈りを土壌として育てられた平和の木は、ハートの絵の中に象徴される無傷のドームを持つ建物や平和の鳩と花などを咲かせ、周りも十字架や鳩、ハートなどで包まれ、平和を明るくあまねく発信しているようです。作者の名前も「丸く周（あまね）く」平和を連想させている。

シナピスホーム便り

平和を願うウクライナのヒマワリをめぐって起こった「国際平和論争」

事務局　山田　直保子

こんなに小さな種でした！

カリタスジャパンからウクライナのヒマワリの種をお預かりしました。ウクライナの人から種が贈られたので、折角だから花を咲かせませんか、と声をかけられました。外来種は地植えが出来ないため、大阪教区ではシナピスホーム屋上の菜園で育てることにしました。

今年の夏はとても暑く、無事に咲くだろうかとひやひやしつつ、シェルターに住む難民移住者たちが大切に育ててくれ、見事にきれいな黄色のヒマワリが咲きました。カリタスジャパンに写真を送ると「ウクライナの人びとへのメッセージをお願いします」と言われて、私は育ててくれた皆さんにそう伝えました。

すると和やかだったシナピスホームの空気が一変しました。

ウクライナの人へのメッセージ、ではなく、日本の難民への扱いがウクライナ人とその他の国の人と全く違うことに対する不満が一気に出てしまったのでした。

「ウクライナ人が日本に避難してきたらすぐにビザもらって良かった。でも何年も前に避難してきた私たちにはなぜ何もない!?」

「私たち何年日本いる？こどもは日本で生まれ育っているのにずっと仮放免。逃げてきた人、みんな一緒。もういつまでも我慢できないよ。」

“異国の地”シナピスホームの屋上で、無事に芽を出してくれました！“いのちの息吹き”を感じさせてくれました。難民移住者たちが大切にお世話をしてくれたおかげです。

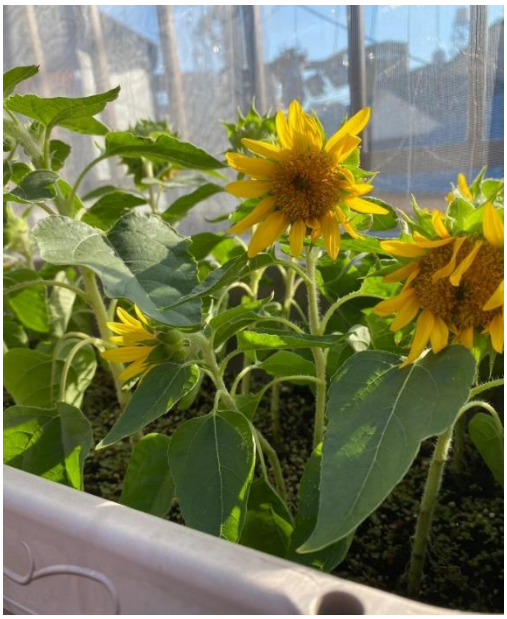
また、親ロシア派と反ロシア派の若者が真っ向から意見をぶつける場面もありました。親ロシア派の人が「ゼレンスキー大統領は早く諦めるべきだ。一番エゴイストだ。ロシアの力は大きいから絶対に勝てない。ウクライナでたくさんの人が死んでいる。ゼレンスキーが降参したら戦争が終わる。人が死ななくて済む」と言うと、別の人が怒りをあらわにして「それはちがう。ロシアがおかしい。私たちの国もずっとロシアに苦しめられてきたんだ。ウクライナは負けちゃいけない」と声を強めて言い出しました。そこから大バトルに発展。英語になったり、日本語になりながら二人の激しい口論が続きました。

いつもは温厚で優しい青年の激しい怒りを初めて目の当たりにした私は、衝撃を受けました。

気軽に「ウクライナへのメッセージを」と言っただけで、こんな大バトルに発展するなんて、私がどれだけ平和ボケしているか、そして、どれだけ当事者たちの心の傷が深いか身につまされる思いでした。いつも教えてくれるのは当事者です。知らない私が言える言葉など何もないのだと痛感し、仲裁はせず思い切り教えてもらおうと、とことん話を聞きました。北朝鮮、アメリカ、日韓の人の感情にまで多方面に激論は及んでいきました。

そこに正午を知らせる時計の鐘が鳴りました。昼食の時間です。その音を聞くとみんなスクッと立ち上がり、「ミーティング終わり」「はい。終わり」と笑顔でそろって２階へ引き上げていきました。あんなにバトってたのに？と残された私が拍子抜けしたくらいでした。

どんな発言でも許されるこの日本で、色んな感情や思いを心の中に閉じ込めている難民移住者たち。誰も想像できないような場面で、決して日本人がしないような大バトルに発展する事があります。その背景には様々な本国に対する思いや自分の思想、譲れない思いがあることを私は改めて知りました。



暑い日本の夏を乗り越えて見事に咲いたウクライナのヒマワリの花

活動へのご支援ご協力を
よろしくお願いいたします。

郵便振替　00960-7-61419
加入者名　カトリック大阪大司教区シナピス

難民移住者への支援物資提供
も宜しくお願いします。
米、ハラール食品、レトルト食品　、油
テレフォンカード、レトルトご飯、缶詰

お電話をお待ちしています！
☎06-6942-1784

シナピス公式
さまざまなお知らせや情報を発信！
友達追加は　QR コードから

CATHOLIC_OSAKA_SINAPIS_

◀◀◀　**HP はこちらから**
https://sinapis.osaka.catholic.

ニュースレター配布停止ご希望の方は
シナピスまでお知らせください。

あとがき

ある自治体の社会福祉協議会の相談員から聞いた話です。彼らは「断らないこと」「相手に寄り添うこと」を信条にしているそうです。どんな問題を抱えた人が訪ねてくるかわかりません。まずは相手の話に耳を傾け、悩みを共感的に理解し、解決につながりそうな方法をともに探ったり、適切な機関につないだりしていくそうです。

日頃からさまざまな知識や情報を得ることも大切ですが、それ以上にネットワークづくりも大切だということです。自分たちだけでできることは限られています。「この問題ならあの人に頼れそうだ」など、他者との連携を具体的にイメージできることが大切なのでしょう。

シナピスにも、さまざまな人たちが相談に訪れます。スタッフの間では、不文律ですが「断らない」「寄り添う」が価値観として共有されています。でも、少ない人数や時間のなかで、できることは限られています。シナピスを支えてくれる人たちや、シナピスとともに問題解決に取り組む人たちの存在が不可欠です。

多様なスキルをもった人たちとのネットワークがあると、難しい問題でも解決の糸口が見えることがあります。ネットワークの中でお互いに支えあえる関係づくりを大切にしたいものだと思います。　（Ｉ）

▽▲▽　シナピスの主な活動　▽▲▽

◆広報活動
・教皇メッセージ、司教団メッセージ等
社会活動の指針の伝達
・読者と教会内外の社会活動をつなぐ
機関誌としてシナピスニュースを発行

◆大阪教区・社会活動委員会との連携
◆学習会研修会の企画
◆こども基金
世界・日本のこどもたちへの援助
◆カトリック中央協議会との連携
正義と平和協議会、難民移住移動者委員会、
カリタス、部落差別人権委員会に委員を派遣
◆人権教育の講師を務めるなど教育機関への
働きかけ
◆難民移住移動者支援
難民移住移動者の暮らしやすい社会を目指して

難民移住移動者　相談ダイヤル
☎　06-6941-4999

アクセス
〒540-0004　大阪市中央区玉造 2-24-22
カトリック大阪大司教区事務局内

●公共交通機関ご利用の場合
JR 森ノ宮駅より　約 1000m
地下鉄中央線森ノ宮 2 番出口より　　約 800m
JR 玉造駅より　　約 1000m
地下鉄長堀鶴見緑地線玉造 1 番出口より約 800m
●車でお越しの場合
阪神高速１３号東大阪線法円坂出口
法円坂交差点南へ上町を東へ

活動へのご支援ご協力をおねがいします
□郵便振替　00960-7-61419
加入者名　カトリック大阪大司教区シナピス
□三井住友銀行　玉造支店　普通　9401958
カトリック大阪大司教区　シナピス
代表役員　前田万葉
□オンラインはこちら　➡➡➡